

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(加藤秀俊『沈黙の世界』による。)

一 線部①から③のカタカナは漢字（送り仮名を含む）に、漢字はひらがなに直し、楷書かいしょでていねいに書きなさい。

二 ①段落「いわしの缶詰のごとくにつぶされ」とありますが、ここでの表現の工夫くふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 擬態語ぎざいごが使われている。
- 2 直喩ちういが用いられている。
- 3 倒置法たうぢはうが用いられている。
- 4 体言止めが使われている。

三 ④段落「不愉快な思いをせざるをえない」、⑤段落「押し合う姿勢をとらざるをえなくなり」について、両方に共通する「ざるをえない」という言葉に着目し、辞書で調べたところ、次のような説明がありました。

【意味】 しないわけにはいかない。

【例】 「そうせざるをえない」、「戦わざるをえない」

調べた結果を用いて、⑧段落の「言わざるをえない」という部分を十二字以内で書き換えなさい。

四 ⑤段落の「苦 苦」について、「非常に苦勞すること」、「たいへんな苦しみ」という意味になるよう にそれぞれ漢数字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

五 Aさんは、国語科の授業において、この文章の構成や内容について理解するために、次のような学習を行いました。

(1) ③、⑥、⑧段落の「例えば」から始まる具体例が示す筆者の考えについて、他と異なるものを一つ探しました。それはどれですか。段落番号で答えなさい。

(2) ①段落の「無表情、無言、ということこそ、こうした場合の人間性なのである。」と同様に、日本人の特質に当てはめて「無表情、無言が悪いことではない」と述べている段落があることに気づきました。その段落はどれですか。段落番号②から⑪までの中から一つ選びなさい。

六 Aさんは、この文章で学んだことを自分の文章表現に生かすために、Bさんと話し合いました。Aさんは、**2段落** なんとなく、変な気持ち

になるから、**3段落** あんまり、いい気持ちのものではない、**5段落** ますます不愉快な経験となるへと、徐々に筆者の感情が変化していることを指摘しました。そのことについて話し合っているAさんとBさんの会話を読んで、後の問いに答えなさい。

Aさん 「2段落から5段落へと、筆者の気持ちが変わっているね。」
Bさん 「5段落のように『不愉快であること』を、初めに述べなかつたのには、理由があるのかな。」
Aさん 「最初から強い感情を表現しても、その理由が分からないから、読者に伝わりにくいんじゃないかな。」
Bさん 「説明を加えながら徐々に感情を強めることで、**あ** というねらいがあるのかもしれないね。」
Aさん 「筆者の**い** という主張を分かりやすく伝えるための工夫と言えるね。」

(1) **あ** に入れるのに最も適切な言葉を、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 読者を話題に引き込む
- 2 読者に反論をうながす
- 3 読者が驚く内容を示す
- 4 読者の予想を否定する

(2) **い** には、次に示す筆者の主張（説明的文章の結論）が入ります。次の（ ）に適する語句を本文中から十六字で抜き出し、筆者の主張を完成させなさい。

『周囲への気遣いや感謝を表す（十六字）が日本人の中に定着してほしい。』